

## メトミノストロピン15%粒剤によるいもち病と紋枯病の同時防除

古川農業試験場

### 1 取り上げた理由

水稻殺菌剤メトミノストロピン 15%粒剤の1回施用による葉いもち・穂いもち並びに紋枯病に対する防除効果を検討したところ、同時に防除できることが明らかになったので参考資料とする。

### 2 参考資料

- 1) メトミノストロピン 15%粒剤を6月下旬(葉いもち初発時)に10アール当たり1kg水面施用すると、葉いもち・穂いもち並びに紋枯病を同時に防除できる。
- 2) いもち病の抑制効果は、「中程度」の発生条件下で、プロベナゾール粒剤とピロキロン粒剤を体系処理した場合と同等である。
- 3) 紋枯病の抑制効果は、専用剤であるフラメトピル粒剤に比べてやや劣るものの発病抑制に有効である。

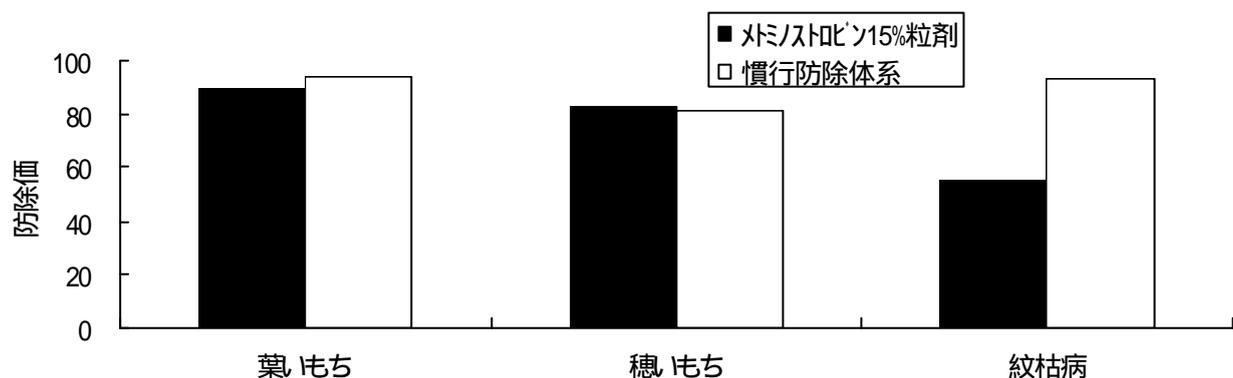


図 メトミノストロピン15%粒剤葉いもち初発時施用の同時防除効果

注) 防除値 = (1 - 薬剤処理発病程度 / 無処理発病程度) × 100

慣行防除体系: カバピル粒剤(葉いもち) + ピロキロン粒剤(穂いもち) + フラメトピル粒剤(紋枯病)

### 3 利活用の留意点

- 1) 多発年での穂いもち抑制効果は、さらに検討が必要である。
- 2) 紋枯病の抑制効果はやや低いことから、要防除水準以上の密度に達した場合には、補完防除を行う。
- 3) 本剤の使用により、稲の葉に褐点を生じる場合があるので使用量を厳守する。また、高温により褐点が生じやすいので、急激な温度上昇が予想される条件下では使用しない。

(問い合わせ先: 古川農業試験場 作物保護部 電話0229-26-5108)

#### 4 背景となった主な試験研究

##### 1) 研究課題名及び研究期間

みやぎの環境にやさしい農産物栽培技術体系の確立 - 水稻編 - 平成 11 ~ 14 年

##### 2) 参考データ

表1 メトミノストロピン15%粒剤の施用時期と葉いもちに対する防除効果  
平成10年(農業センター)

	7月22日(葉いもち最盛期)		防除価	処理25日後 薬斑形成程度
	株当たり病斑数	防除価		
出穂54日前(初発13日前)	0.20	84.7		±
41日前(初発時)	0.22	82.9		+
30日前(初発11日後)	0.54	58.9		++
フロハナゾール粒剤	0.15	88.7		-
無処理	1.31	-		-

平成11年(農業センター)

	7月26日(葉いもち最盛期)		防除価	処理25日後 薬斑形成程度
	株当たり病斑数	防除価		
出穂54日前(初発13日前)	0.48	95.3		±
41日前(初発時)	1.33	87.1		+
30日前(初発11日後)	0.84	91.8		+
フロハナゾール粒剤	0.02	99.8		-
無処理	10.29	-		-

注)防除価 = (1 - 薬剤処理病斑数 / 無処理病斑数) × 100

薬斑形成程度 - :褐色斑点の発生無し

± :上位葉に褐色斑点が見られず、下位葉にわずかに見られる

+ :上位葉の褐色斑点はわずかで下位葉全面に褐色斑点が見られる

++ :上位葉にも褐色斑点が見られ下位葉全面に褐色斑点が見られる

表2 メトミノストロピン15%粒剤の施用時期と穂いもちに対する防除効果  
平成10年(農業センター)

	9月9日		
	穂いもち発病穂率(%)	被害度	防除価
出穂54日前(初発13日前)	5.95	3.13	81.7
41日前(初発時)	7.06	3.64	78.8
30日前(初発11日後)	6.35	3.00	82.5
フロハナゾール粒剤 + ビロキロン粒剤	5.48	2.73	84.1
無処理	28.88	17.14	-

平成11年(農業センター)

	9月9日		
	穂いもち発病穂率(%)	被害度	防除価
出穂54日前(初発13日前)	6.34	2.29	86.6
41日前(初発時)	11.71	4.51	73.7
30日前(初発11日後)	8.9	3.55	79.2
フロハナゾール粒剤 + ビロキロン粒剤	10.35	3.54	79.3
無処理	31.25	17.31	-

注)被害度 = 穂首発病穂率 + 枝梗1/3以上発病穂率 × 0.66 + 枝梗1/3未満発病穂率 × 0.26

防除価 = (1 - 薬剤処理被害度 / 無処理被害度) × 100

表3 メトミノストロピン15%粒剤葉いもち初発時施用の紋枯病抑制効果(平成14年)

	施用時期	9/9紋枯病		防除価
		発病株率(%)	ほ場被害度	
メトミノストロピン15%粒剤	7月3日	49.0	18.3	55.0
フラメビル粒剤	7月26日	18.3	2.6	93.6
無処理	-	84.3	40.6	-

注)ほ場被害度 = (1.62 × 病斑高率 - 32.4) × 発病株率

防除価 = (1 - 薬剤処理ほ場被害度 / 無処理ほ場被害度) × 100

本試験は7月15日に紋枯病稲わら培養菌を株内接種して行った

##### 3) 発表論文等

メトミノストロピン粒剤の施用時期といもち病の防除効果(北日本病害虫研報,第51号,P15

-17)